

強者の戦略

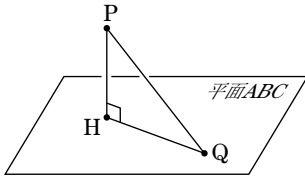
それでは前回の解答です。まずは図形の位置関係を調べる方針で解いてみます。

数ⅠAⅡB

座標空間内の3点 $A(4, 0, -1)$, $B(0, 1, 1)$, $C(2, -1, -1)$ に対し、三角形 ABC の周および内部からなる領域を D とする。点 $P(1, -2, 1)$ を中心とする球面 S と領域 D が共有点をもつような、球面 S の半径 r の最小値を求めよ。

《解答》

点 P から平面 ABC に下ろした垂線の足を H とする。領域 D 上の任意の点を Q とすると、求めるものは、線分 PQ の長さの最小値である。



$$PQ^2 = PH^2 + HQ^2$$

が成り立ち、 PH は一定で、さらに

$$PQ \geq 0, HQ \geq 0$$

であるから、 HQ が最小のとき PQ が最小となる。

$$\vec{BA} = \begin{pmatrix} 4 \\ -1 \\ -2 \end{pmatrix}, \vec{BC} = \begin{pmatrix} 2 \\ -2 \\ -2 \end{pmatrix}$$

である。

$$\vec{n} = \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ 3 \end{pmatrix}$$

とすると

$$\vec{BA} \cdot \vec{n} = 0, \vec{BC} \cdot \vec{n} = 0$$

より、 \vec{n} は平面 ABC の法線ベクトルの1つである。

$\vec{PH} \parallel \vec{n}$ より、実数 k を用いて

$$\vec{PH} = k\vec{n} \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

と表すことができる。また、 $\vec{AH} \perp \vec{n}$ より

$$\vec{AH} \cdot \vec{n} = 0$$

$$(\vec{PH} - \vec{PA}) \cdot \vec{n} = 0$$

$$(k\vec{n} - \vec{PA}) \cdot \vec{n} = 0 \quad (\because \textcircled{1})$$

$$\therefore k = \frac{\vec{PA} \cdot \vec{n}}{|\vec{n}|^2}$$

である。①に代入して

$$\vec{PH} = \frac{\vec{PA} \cdot \vec{n}}{|\vec{n}|^2} \vec{n}$$

を得る。

$$\begin{aligned} \vec{PA} \cdot \vec{n} &= \begin{pmatrix} 3 \\ 2 \\ -2 \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ 3 \end{pmatrix} \\ &= 3 - 4 - 6 = -7 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} |\vec{n}|^2 &= 1 + 4 + 9 \\ &= 14 \end{aligned}$$

であるので

$$\begin{aligned} \vec{PH} &= -\frac{1}{2} \vec{n} \\ &= -\frac{1}{2} \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ 3 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

である。よって

$$\begin{aligned} \vec{BH} &= \vec{BP} + \vec{PH} \\ &= \begin{pmatrix} 1 \\ -3 \\ 0 \end{pmatrix} - \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ 3 \end{pmatrix} \\ &= \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 1 \\ -4 \\ -3 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

である。ここで

$$\begin{aligned} -\frac{1}{2} \vec{BA} + \frac{5}{4} \vec{BC} &= -\frac{1}{2} \begin{pmatrix} 4 \\ -1 \\ -2 \end{pmatrix} + \frac{5}{4} \begin{pmatrix} 2 \\ -2 \\ -2 \end{pmatrix} \\ &= \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 1 \\ -4 \\ -3 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

であるから

強者の戦略

$$\vec{BH} = -\frac{1}{2}\vec{BA} + \frac{5}{4}\vec{BC}$$

である。よって、点 H は平面 ABC 上において、直線 BC に関して点 A とは反対側に存在する。

点 H から直線 BC に下ろした垂線の足を N とすると実数 l を用いて

$$\vec{BN} = l\vec{BC}$$

$$\vec{HN} = \vec{BN} - \vec{BH}$$

$$= \frac{1}{2}\vec{BA} + \left(l - \frac{5}{4}\right)\vec{BC}$$

と表すことができる。また、 $\vec{HN} \perp \vec{BC}$ より

$$\frac{1}{2}\vec{BA} \cdot \vec{BC} + \left(l - \frac{5}{4}\right)|\vec{BC}|^2 = 0$$

$$\frac{1}{2} \cdot 14 + 12\left(l - \frac{5}{4}\right) = 0$$

$$\therefore l = \frac{2}{3}$$

である。

$$0 < l < 1$$

より、N は線分 BC 上の点であるので、 $Q = N$ のとき、HQ は最小である。

$$\vec{HN} = \frac{1}{2}\vec{BA} - \frac{7}{12}\vec{BC}$$

$$= \frac{1}{12} \left[6 \begin{pmatrix} 4 \\ -1 \\ -2 \end{pmatrix} - 7 \begin{pmatrix} 2 \\ -2 \\ -2 \end{pmatrix} \right]$$

$$= \frac{1}{12} \begin{pmatrix} 10 \\ 8 \\ 2 \end{pmatrix}$$

$$= \frac{1}{6} \begin{pmatrix} 5 \\ 4 \\ 1 \end{pmatrix}$$

より

$$|\vec{HN}| = \frac{1}{6} \sqrt{25 + 16 + 1}$$

$$= \frac{\sqrt{42}}{6}$$

である。 $\vec{PH} = -\frac{1}{2} \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ 3 \end{pmatrix}$ より

$$|\vec{PH}| = \frac{1}{2} \sqrt{1 + 4 + 9}$$

$$= \frac{\sqrt{14}}{2}$$

である。よって

$$PN = \sqrt{PH^2 + HN^2}$$

$$= \sqrt{\left(\frac{\sqrt{42}}{6}\right)^2 + \left(\frac{\sqrt{14}}{2}\right)^2}$$

$$= \sqrt{\frac{1}{12} + \frac{1}{4}} \cdot \sqrt{14}$$

$$= \sqrt{\frac{1}{3}} \cdot \sqrt{14}$$

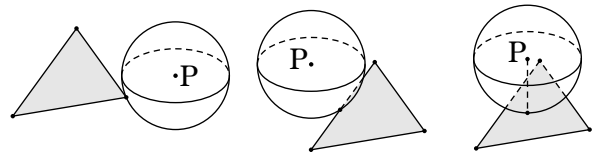
$$= \frac{\sqrt{42}}{3}$$

であり、これが求める r の最小値である。

《解説》

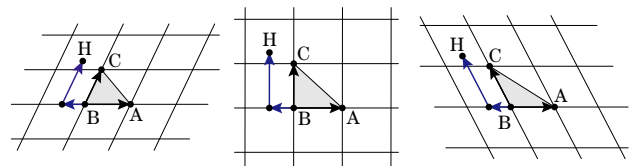
球面と領域 D が共有点をもつ半径が最小となるときは次の3つの場合が考えられます。

- ・球面が三角形の頂点を通る場合
- ・球面が三角形の辺において接する場合
- ・球面が三角形の内部で接する場合



今回は座標軸を描いて図示しても、球と三角形の位置関係を把握するのは困難です。こういったときは断面や垂線を用いて、平面の話に持ち込むのが効果的です。《解答》では球面の中心 P から平面 ABC に下ろした垂線の足が三角形 ABC に対してどこにあるかを考えています。

$$\vec{BH} = -\frac{1}{2}\vec{BA} + \frac{5}{4}\vec{BC}$$



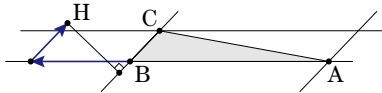
$\triangle ABC$ は様々な形状が考えられますが、 \vec{BA} の係数が負より、上図のようにいずれの場合も点 H

強者の戦略

は $\triangle ABC$ の外部, より正確には直線 BC に関して, 点 A とは反対側にあることが分かります.

よって, 線分 BC 上の点で, 点 H に最も近い点を求めたいのですが, 次図のように極端な場合も考慮すると, 点 H に最も近い点は

点 B , 点 C , H から BC に下ろした垂線の足のいずれかです.



《解答》では, 点 H から直線 BC に下ろした垂線の足を N とすると実数 l を用いて

$$\vec{BN} = l\vec{BC}$$

と表すことができることを利用し, l の値を調べることで N の位置を調べています.

N の位置を調べるだけなら, 次のような計算も考えられます.

$$\begin{aligned}\vec{OH} &= \vec{OP} + \vec{PH} \\ &= \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ 1 \end{pmatrix} - \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ 3 \end{pmatrix} \\ &= \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ -1 \end{pmatrix}\end{aligned}$$

より

$$B(0, 1, 1), C(2, -1, -1), H\left(\frac{1}{2}, -1, -\frac{1}{2}\right)$$

用いて

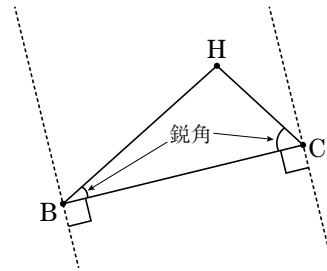
$$\begin{aligned}\vec{BC} &= 2 \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ -1 \end{pmatrix}, \vec{BH} = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 1 \\ -4 \\ -3 \end{pmatrix}, \\ \vec{CH} &= \frac{1}{2} \begin{pmatrix} -3 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}\end{aligned}$$

であるから

$$\vec{BC} \cdot \vec{BH} = 1 + 4 + 3 = 8 > 0$$

$$\vec{CB} \cdot \vec{CH} = 3 + 0 + 1 = 4 > 0$$

である. よって, $\angle CBH$ と $\angle BCH$ はともに鋭角であるから, H から直線 BC に下ろした垂線の足 N は線分 BC 上にあることが分かる.



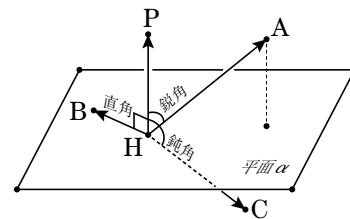
\vec{a}, \vec{b} のなす角を $\theta (0 \leq \theta \leq \pi)$ とすると

$$\cos\theta = \frac{\vec{a} \cdot \vec{b}}{|\vec{a}| |\vec{b}|}$$

より, 内積と 0 との大小で, 2 つのベクトルのなす角が鋭角・直角・鈍角のいずれであるかが判断できます. 今回はどちらも鋭角より, 点 H が上図の 2 本の破線の間にあることは分かります.

本問では, 最小値を求めるために l とおいて解くほうが計算量が減ります.

また, 同様にして, 空間内での点の位置関係を調べることができます.



図のように, 平面 α に関して, 3 点 A, B, C が点 P と同じ側にあるか, 反対側にあるか, あるいは平面上にあるかは, H を始点とするベクトルのなす角を調べることで分かります.

空間における大事な考え方の 1 つですので押さえておきましょう.

強者の戦略

さて、ここまでは捉えにくい3次元の様子をいかにして捉えるかというのがテーマでしたが、最後に位置関係を一切気にしない解法もやってみましょう。

《別解》

領域 D 上の任意の点を Q とすると、求めるものは、線分 PQ の長さの最小値である。

Q は三角形 ABC の周または内部上の点より

$$\begin{aligned}\vec{BQ} &= s\vec{BA} + t\vec{BC} \\ (s \geq 0, t \geq 0, s+t \leq 1)\end{aligned}$$

と表すことができる。

$$\vec{BP} = \begin{pmatrix} 1 \\ -3 \\ 0 \end{pmatrix}, \vec{BQ} = \begin{pmatrix} 4s+2t \\ -s-2t \\ -2s-2t \end{pmatrix}$$

より

$$\begin{aligned}|\vec{PQ}|^2 &= (4s+2t-1)^2 + (-s-2t+3)^2 \\ &\quad + (-2s-2t)^2 \\ &= 21s^2 + (28t-14)s + 12t^2 - 16t + 10 \\ &= 21\left(s - \frac{1-2t}{3}\right)^2 + \frac{8}{3}\left(t - \frac{5}{4}\right)^2 + \frac{7}{2}\end{aligned}$$

である。これを $f(s)$ とおく。

まず、 t を $0 \leq t \leq 1$ において固定し s だけ動かしたときの $f(s)$ の最小値 $g(t)$ を求める。

$$s \geq 0, t \geq 0, s+t \leq 1 \text{ より}$$

$$0 \leq s \leq 1-t \ (\leq 1)$$

である。

$$(i) \ 0 \leq \frac{1-2t}{3} \leq 1-t \text{ つまり } 0 \leq t \leq \frac{1}{2} \text{ のとき}$$

$$s = \frac{1-2t}{3} \text{ で } f(s) \text{ は最小値}$$

$$g(t) = \frac{8}{3}\left(t - \frac{5}{4}\right)^2 + \frac{7}{2}$$

をとる。

$$(ii) \ \frac{1-2t}{3} \leq 0 \text{ つまり } \frac{1}{2} \leq t \leq 1 \text{ のとき}$$

$$s = 0 \text{ で } f(s) \text{ は最小値}$$

$$\begin{aligned}g(t) &= 12t^2 - 16t + 10 \\ &= 12\left(t - \frac{2}{3}\right)^2 + \frac{14}{3}\end{aligned}$$

をとる。

$$(iii) \ 1-t \leq \frac{1-2t}{3} \text{ のとき}$$

$$t \geq 2 \text{ となり、不適である。}$$

次に t を動かしたときの $g(t)$ の最小値を求める。

$$(i) \text{ のとき、 } t = \frac{1}{2} \text{ で最小値 } 5,$$

$$(ii) \text{ のとき、 } t = \frac{2}{3} \text{ で最小値 } \frac{14}{3}$$

をとる。よって、 $|\vec{PQ}|^2$ は、 $s=0, t=\frac{2}{3}$ で最小値

$$\frac{14}{3}$$

をとる。

以上より、求める半径 r の最小値は

$$\sqrt{\frac{14}{3}} = \frac{\sqrt{42}}{3}$$

である。

《解説》

点 P が三角形 XYZ の周および内部に存在するとき、三角形 XYZ の形状によらず

$$\vec{XP} = s\vec{XY} + t\vec{XZ}$$

$$(s \geq 0, t \geq 0, s+t \leq 1)$$

が成り立つのでした。座標平面上で三角形上の点を表そうとすると、三角形を囲む3直線の方程式を求めて領域で表して……とメンドウな作業が必要になります。

図形の形が不明、もしくは不定のときはベクトルが有効な手段となりますね。

これを用いると、 PQ^2 を

$$21s^2 + (28t-14)s + 12t^2 - 16t + 10$$

と独立な2変数 s, t を用いて表すことができます。

強者の戦略

多変数関数の最大・最小で文字を減らすことができない場合に有効なのが、1文字固定法です。今回は s, t ともに「次数」, 「登場回数」が変わらないため、どちらかを固定して2次関数として最小値を考え、固定した文字を動かし、真の最小値を求めます。

さらに

$$s=0, t=\frac{2}{3} \text{ のとき, } \vec{BQ}=\frac{2}{3}\vec{BC} \text{ となるので}$$

PQ が最小となるような Q の居場所も判明します。

いかがだったでしょうか。最初に習う初等幾何に加えて、高校数学でベクトルや三角比などを習い、図形問題に挑むための解法(武器)を手に入れることができます。

難問を解くための武器を数多く揃え、1つ1つを磨き上げていきましょう。

では、今回はここまでにしたいと思います。

(数学科 松浦)